

保護者の皆さまへ

保育中のお子さまの健康を守るために

★預け初めは要注意。できる限り、慣れ(慣らし)保育を

預け初めの時期、環境の変化から子どもには強いストレスがかかり、急な不調につながりかねません。施設と相談のうえ、保護者が付き添う慣れ(慣らし)保育を積極的に行ってください。

★子どもの健康状態を伝えましょう

入園の際、母子手帳の内容、健康診断結果、予防接種記録、アレルギーの有無などを施設に伝えましょう。在園中に病気が診断された時も必ず伝えてください。

また、登園の際には、前夜と当日の子どもの体調や食事などで気になる様子があった場合、家庭や登園中にケガをした場合などは、必ず施設に伝えましょう。

★施設での子どもの様子をよく聞きましょう

お迎えの際は、その日の子どもの体調、食事の様子などを聞きましょう。くわしい情報(ミルクの量や排便、体温など)は、連絡帳などを活用して記録が残るようにしておきます。

★施設の記録、連絡体制に疑問を感じたら

施設が子どもの健康情報を求めてこない、子どもの健康情報を話さない、連絡帳などでやりとりをしない、といった場合には、施設側に尋ねてください。尋ねても返事がない場合は、自治体に積極的に相談しましょう。

★家庭でも「寝かしつけはあおむけ寝」

保育施設では、子どもの窒息死や突然死を予防するため、あおむけ寝と睡眠チェックを行っています。保育施設で子どもが容易に睡眠をとれるよう、家庭でもあおむけ寝にさせましょう。厚生労働省は、「家庭でも寝かしつけはあおむけ寝」を推奨しています(「厚生労働省 SIDS」でインターネット検索してください)。

保育施設の皆さまへ

保育中の子どもたちの健康と命を守るために

★睡眠時はあおむけ寝

窒息死や突然死を防ぐため、特に0歳と1歳はあおむけで。

★睡眠チェックを必ずしましょう

特に0歳と1歳は一人ひとりの子どもに触れ、熱さ、発汗、腫れ、鼻づまりなども観察しましょう。目視だけでは不十分です。「いつもと違う」は、子どもからの大切なシグナルです。念のため、保護者にもお迎え時に伝えましょう。

★預け初めは要注意。できる限り、慣れ(慣らし)保育を

預け初めの時期、環境の変化から子どもには強いストレスがかかり、急な不調につながりかねません。慣れ(慣らし)保育を積極的に行ってください。

★子どもの健康情報を集め、保存しましょう。園からも情報提供を

入園の際、母子手帳の内容、健康診断結果、予防接種記録、アレルギーの有無などを必ず提示してもらい、留意事項を記録しておきましょう。職員全員で情報共有することは大事ですが、情報そのものの扱いには要注意です。

また、毎日の登園の際、前夜と当日の子どもの体調で気になるところがないか、聞き取りましょう。家庭や登園中にケガをしていないかも尋ねましょう。

お迎えの際は、体調、食事、様子などで気になる点を伝えましょう。ケガも伝えます。くわしい情報は、連絡帳などを活用して記録が残るようにしておきます。

★保護者が健康情報を提供しない、無理に預けようとする場合には

保護者が子どもの健康情報を提供しない、嘘をつくなどして無理に預けようとする場合は、「子どもの健康を守るため」である旨を伝え、自治体にも相談しましょう。

★保護者の緊急連絡先は定期的に確認しましょう

メッセージを残せる電話番号、または他の人に伝言を残せる電話番号かどうか、定期的に確認しましょう。

★緊急時の想定訓練をしましょう

緊急時に即応できるようマニュアルを作り、想定訓練をしましょう。